

大腸カメラの先端が大腸の終点である盲腸に到達したら、ここから大腸の観察が始まります。大腸の奥から少しずつカメラを抜いていきますが、抜きながら腸の壁を観察していきます。大腸の中には、朝から飲んでいただいた下剤の液や、出し切れなかった便が少量残っていることがあります。これはカメラの先端にある吸引口から吸い取りながら腸をきれいにしつつ、ゆっくり丁寧に観察していきます。この時、大腸の壁が良く見えるようにカメラから空気を多少送り込んで、腸を膨らませながら見ていきますので、若干お腹が張る感じがすると思います。

大腸の壁（粘膜）は、正常であれば毛細血管が木の枝のように張り巡らされています。大腸自体は一本の管ですが、表面は蛇腹というか、アコーディオンカーテンのようなヒダヒダがあり、出来る限りヒダの裏なども含め全体的に観察していきます。灘診療所では、観察しているモニター画面を、検査を受けている方ご自身にも見て頂くことが出来ます。例えばポリープがあれば、腸の壁に「キノコ」のように盛り上がって見えるので、特に専門家でなくても分かりますし、またそのポリープを切除するところなども御覧になれます。まさに、いま自分の身体の中で行っている治療をじかに見ながら受けることが出来るのです。（勿論、皆様の中には「そんなの見たくない」と言う方もおられると思いますので、その方には検査や治療が終わった後に説明させて頂いています）。

そして観察しながら（またはポリープの切除を行い）最終的にカメラを肛門から抜いて検査終了となりますが、検査開始から終了までの時間は腸が長いかわりか、またポリープの治療をするかどうかなどによって異なりますので一概には言えません。非常に大まかに言うならば、「短い人で15分、長い人で1時間」といったところで、平均は30分位だと思います。

検査が終わった後も、少し眠くなるお薬を使用した方はすぐに帰宅すると危ないので、しばらくの間検査室の外のベッドで横になって休んでいただきます。この時に、大腸の検査のためにカメラから送り込んだ空気がガス、いわゆる「おなら」として結構出てきます。このガスは我慢せずにとんどん出してください。カメラから送り込んだばかりの空気ですので、特に臭いにおいなどありませんし、このガスを出すことによってお腹の張りが楽になっていきます。

最後に検査後の注意事項や、今後の受診予定などを看護師から説明させていただきます。検査後は基本的には食事などは自由ですが、ポリープを切除したり、腸の細胞検査などを行った方には若干の制限があります（刺激物やアルコールの制限など）。